

# 甲田遺跡Ⅲ

富田林市遺跡調査会報告15

編集・発行 富田林市遺跡調査会

住 所 〒584

富田林市常盤町1番1号

発行年月日 1998年5月31日

調査地 大阪府富田林市甲田三丁目107-5

調査原因 店舗付共同住宅建設に伴う

緊急発掘調査

調査主体 富田林市遺跡調査会

調査担当者 平方扶左子・田中正利

調査面積 60.0m<sup>2</sup>

調査期間 1998年4月15日～5月31日

## はじめに (図1)

甲田遺跡は、1968（昭和43）年、遺跡東方の甲田浄水場進入路工事の際に、古墳時代後期の土器が出土したことから、その存在が知られるようになりました。遺跡は富田林市のほぼ中央部に位置し、市内中央を流れる石川西岸の低位及び中位段丘上に広がっています。その範囲は南北750m、東西550mに及び、現南甲田を中心に奈良時代の集落跡と推定されています。これまでの調査によって、弥生時代から中世にかけての遺跡であることが分かっています。

今回は近鉄長野線石川西駅の東側で、事業主である松本勝氏の協力を得て、建物部分について調査を行いました。

## 調査の方法と基本層序

調査は、調査地の中央部にL字にトレンチ設定して行いました。事前調査では調査地北側で東西方向の河道の一部を検出しました。そのため、本調査時に河道の南側の肩を確認するため、調査地北東端部分を南北2m、東西1mのトレンチを機械掘削して確認することにしましたが、このトレンチで南側の肩を検出できませんでした。

基本層序は水田面が4面あり、この下に灰褐色弱粘質土と褐色弱粘質土の包含層を確認しました。遺構面は2面あり、1面目は褐色弱粘質土層上面で、2面目は地山面で検出しました。調査



図1 甲田遺跡調査地位置図

は灰褐色弱粘質土までを機械で掘削し、後は人力で精査し、遺構を検出しました。

## 遺構と遺物 (図2)

遺構面が2面あり、1面目でピット1、土坑1、2面目で落ち込み1、土坑5、ピット8を検出しました。ここでは土師器の皿が集積している1面目のピット1と、2面目の落ち込みについて記述し、その他の遺構については遺構一覧表を参照してください。(表1)

### ピット1 (図3・4、写真1)

調査区の北西部で検出しました。東西0.60m、南北0.35mの楕円形をしており、深さは0.42mあります。埋土は濁灰褐色弱粘質土です。

ピットの中からは土師器の皿が36枚まとまって出土しました。これらは出土状態から1枚ずつばらばらに入れたのではなく、数枚をひとまとめにして何回かに分けて納められたことが分かります。また、東端には意識的に立てて納めた皿もありました。

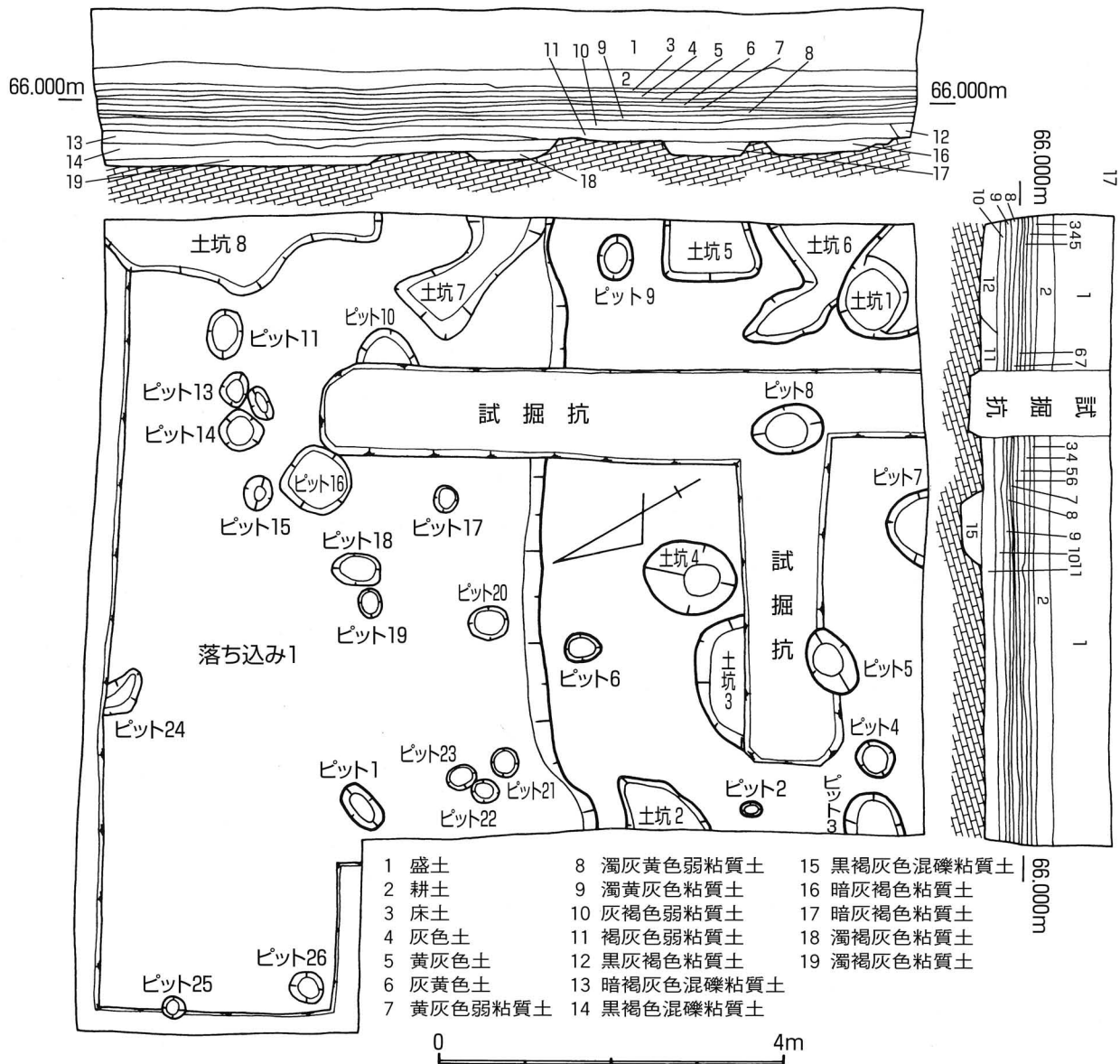


図2 遺構平面図・断面図

出土した皿は大小2種類の大きさのものがあ  
ります。これらはさらに形状から小皿で5種類、大  
皿で2種類に分けることができますが、主に2種  
類の小皿と1種類の大皿によって構成されていま  
す(図4、表2)。小皿の中には底に植物の圧痕が  
残っているもの(図4-2)もありました。

### 落ち込み

調査区の北半部で検出した、北側にある河道に  
向かって下がる自然地形の落ち込みで、深さは0.35  
mあります。埋土は2層あり、1層目が暗褐色混  
礫粘質土、2層目が黒褐色混礫粘質土です。遺物  
は両層から弥生土器、土師器、須恵器、黑色土器、

サヌカイトが出土しています。これらの遺物はこ  
の上層にある褐灰色弱粘質土層の遺物と構成が同  
じで、これら3層が落ち込みを埋めたときの整地  
層のようです。

### まとめ

今回の調査では2面の遺構面があることが確認  
できました。

1面目のピット1は土師器皿を埋納したもので、  
地鎮のために行ったものと見られます。埋納され  
た時期については12世紀代と考えられ、落ち込み  
を整地した時期もこの頃と考えられます。

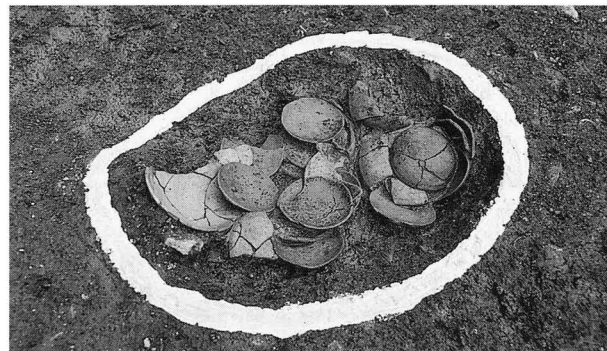
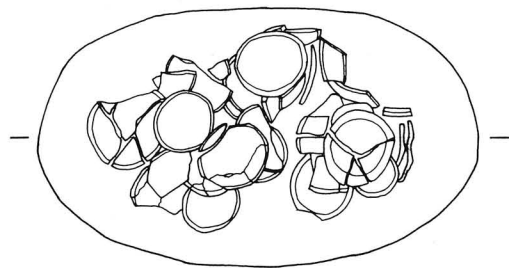


写真1 ピット1 遺物出土状況(南から)

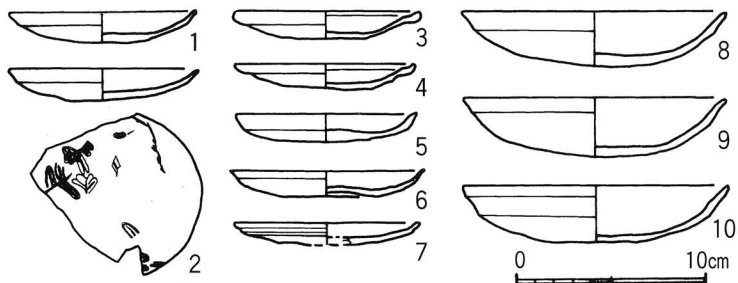
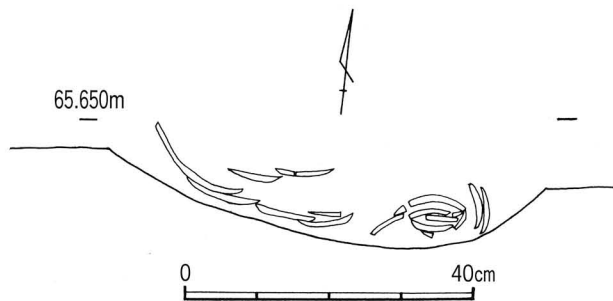


図3 ピット1 遺物出土状況

図4 ピット1 出土遺物

種別	形状	大きさ(m)	深さ(m)	土色	遺物
ピット2	円形	0.25×0.20	0.21	黒褐灰色混礫粘質土	
ピット3	不整形	(0.50)×0.70	0.19	暗灰褐色粘質土	
ピット4	円形	0.45×0.45	0.35	暗灰褐色粘質土	
ピット5	楕円形	0.80×0.55	0.50	黒褐灰色混礫粘質土	
ピット6	円形	0.40×0.35	0.24	黒褐灰色混礫粘質土	土師器
ピット7	不整形	0.90×(0.40)	0.24	黒褐灰色混礫粘質土	須恵器
ピット8	楕円形	0.80×0.60	0.46	黒褐灰色混礫粘質土	土師器
ピット9	円形	0.55×0.40	0.13	暗灰褐色粘質土	
ピット10	不整形	(0.40)×0.70	0.10	濁褐灰色粘質土	
ピット11	楕円形	0.60×0.40	0.19	濁褐灰色粘質土	
ピット12	楕円形	0.45×0.35	0.19	濁褐灰色粘質土	
ピット13	円形	0.40×0.30	0.18	濁褐灰色粘質土	
ピット14	隅丸方形	0.45×0.45	0.20	濁褐灰色粘質土	
ピット15	円形	0.40×0.35	0.22	濁褐灰色粘質土	
ピット16	隅丸方形	0.75×0.75	0.20	濁褐灰色粘質土	
ピット17	円形	0.35×0.25	0.09	濁褐灰色粘質土	
ピット18	楕円形	0.55×0.40	0.15	濁褐灰色粘質土	
ピット19	楕円形	0.35×0.25	0.18	濁褐灰色粘質土	
ピット20	円形	0.45×0.40	0.15	濁褐灰色粘質土	
ピット21	円形	0.35×0.30	0.06	濁褐黄色粘質土	
ピット22	円形	0.30×0.30	0.08	濁褐黄色粘質土	
ピット23	円形	0.35×0.30	0.06	濁褐黄色粘質土	
ピット24	不整形	(0.60)×0.40	0.05	濁褐灰色粘質土	
ピット25	円形	0.30×0.30	0.07	濁褐黄色粘質土	
ピット26	円形	0.40×0.35	0.14	濁褐黄色粘質土	
土坑1	不整形	(1.20)×(0.95)	0.69	黒灰褐色粘質土	土師器・須恵器
土坑2	不整形	0.90×8 0.60)	0.16	暗灰褐色粘質土	
土坑3	不整形	1.55×(0.60)	0.27	黒褐灰色混礫粘質土	
土坑4	円形	1.05×0.90	0.46	黒褐灰色混礫粘質土	
土坑5	不整形	1.15×(0.70 0	0.15	暗灰褐色粘質土	
土坑6	不整形	(1.35)×(1.35)	0.49	暗灰褐色粘質土	
土坑7	不整形	(1.60)×0.90	0.19	濁褐灰色粘質土	
土坑8	不整形	(3.10)×(0.95)	0.10	濁褐灰色粘質土	

表1 遺構一覧表

タイプ	図版番号	法量	色調	調整	出土数	備考
小皿 a	図4-1、2	口径 平均9.6 器高 平均1.5	橙 色	外面：口縁・体部一段ヨコナデ 底部不定ナデ 内面：口縁ヨコナデ 体部・底部不定ナデ	11	●底部外面に植物圧痕あり ●底部、体部外面に粘土接合痕 ●底部外面にユビオサエの痕跡が明瞭に残る
小皿 b	図4-3、4	口径 平均9.7 器高 平均1.4	浅黄橙色	外面：口縁ヨコナデ 体部・底部不定ナデ 内面：口縁ヨコナデ 体部・底部一定ナデ	13	●「て」の字口縁皿 ●底部外面に粘土接合痕
小皿 c	図4-5	口径 9.5 器高 1.5	濁橙色	外面：口縁・体部一段ヨコナデ 底部不定ナデ 内面：口縁ヨコナデ 体部・底部不定ナデ	2	●小皿 a に比べて口縁立ち上がりが急である
小皿 d	図4-6	口径 10.2 器高 1.5	浅黄橙色	外面：口縁二段ヨコナデ 体部・底部不定ナデ 内面：口縁ヨコナデ 体部・底部不定ナデ	1	
小皿 e	図4-7	口径 9.8 器高 1.2	濁橙色	外面：口縁一段ヨコナデ 体部・底部不定ナデ 内面：口縁ヨコナデ 体部・底部不定ナデ	1	●口縁外面に1条沈線を施す。
大皿 A	図4-8、9	口径 平均14.1 器高 平均3.0	濁橙色	外面：口縁一段ヨコナデ 体部・底部不定ナデ 内面：口縁ヨコナデ 体部・底部不定ナデ	6	
大皿 B	図4-10	口径 14.2 器高 3.0	淡橙色	外面：口縁二段ヨコナデ 底部・体部不定ナデ 内面：口縁ヨコナデ 体部・底部ナデ	2	

表2 ピット1出土土師器皿観察表

2 面目でも土坑、ピットが確認されましたが、遺構埋土からは時期の分かる遺物は出土していません。落ち込みの埋土や褐灰色弱粘質土層からは弥生時代中期から10世紀にかけての遺物が出土しており、2 面目の遺構もこれらの時期の遺構と見られます。

調査地の西側を走っている近鉄長野線の高架化に伴って大阪府教育委員会が1980年に調査を行っています。その結果、川西駅周辺では古墳時代後期から13世紀にかけての遺構が見つかっており、これ以降は集落の中心が南に移ったようで、遺構・遺物はあまり見つかっていません。今回の調査でも12世紀より後の遺構・遺物は見つからず、集落が移動していることが考えられます。

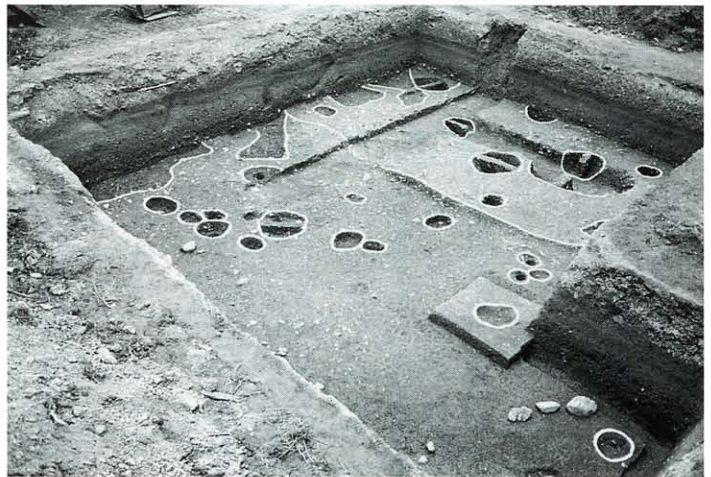


写真2 調査区全景（北から）

ふりがな	こうだいせき3							
書名	甲田遺跡Ⅲ							
副書名	富田林市遺跡調査会報告							
巻次	15							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著書名	平方扶左子・田中正利							
編集機関	富田林市遺跡調査会							
所在地	〒584 大阪府富田林市常盤町1番1号 ☎0721-25-1000							
発行年月日	西暦1998年5月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	〃	〃		(㎡)	
こうだいせき 甲田遺跡	おおさか 富田林市 甲田三丁目 107-5 他	27214		34° 29' 20"	135° 35' 39"	1998.4.15 ) 1998.5.31	60.0	店舗付き共同住宅 建設に伴う 緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
甲田遺跡	集落跡	古墳時代～中世		落ち込み・ 土坑・ピット		弥生土器・土師器・ 須恵器・黒色土器 瓦器・サヌカイト		